

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	英語演習		
英文授業科目名	Intermediate Seminars in English		
開講年度	2007年度	開講年次	2年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化演習科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	酒井 邦秀		
居室	東1-716		

公開E-Mail	授業関連Webページ
sakaikunihide@bunka.uec.ac.jp	http://tadoku.org

<p>【主題および達成目標】</p> <p>言語文化科目（英語）の全体的な目標については「学修要覧」の122ページをご覧ください。みなさんが critical thinking を理解し、活用できること、英語をみずから身につけようとする意欲を養い、その方法を探る手助けをするために、以下の主題と達成目標を設けます。</p> <p>基本的に前学期の酒井クラスから引き続いて、</p> <p>(a) 主題：多聴・多読・シャドーイングによる英文の大量吸収 小学校低学年程度の挿絵入り本やその朗読からはじめて、少しずつレベルを上げ、英語を日本語を通すことなく、日本語とおなじように吸収していきます。</p> <p>(b) 達成目標：概括的な目標としては、英語獲得に関してひとりひとりがみずからの学習目的と過程を意識して、それを客観的に批判的に評価しつつ、次の学習ステップを選べること。具体的な目標としては、そうした学習姿勢を土台にして、</p> <p>* 学年末までにネイティブ・スピーカーの小学校中学年を読み聞きするレベルの英文を直接、日本語を介さずに吸収できること、さらにインターネット上の一般向けのサイトの英文を通読して、自分に必要な情報かどうか判断し、さらにその概要をつかめること。</p> <p>* 前学期以来の多聴・シャドーイングを継続することにより、英語特有の音をさらに獲得し、毎日の暮らしの中で、その状況に適切な文（たとえば I'm going to talk about my study at Denki-Tshushin University. など）で対応できること、</p> <p>を目標にします。</p>
--

電気通信大学 平成19年度シラバス

【前もって履修しておくべき科目】

2006年度の酒井クラス。希望者が定員に満たない場合には酒井クラス未経験者も履修可能です。その場合の条件は昼間コース酒井担当のAcademic Spoken English Iのこの項を参照してください。

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

なし。

【教科書等】

いわゆる教科書などはありません。多聴・多読・シャドーイング用の素材は酒井が用意します。ただし、酒井の用意する本は毎年かなりの率で消えていきます。そこで、補充用に1学期につき1000円を集め、酒井の奨学寄付金講座に寄付し、それを多聴多読素材及び機器購入に当てます。

また、多聴・多読・シャドーイングの履歴を記録し、先生による助言の資料とするために、「読書記録手帳」を購入してください。

なお、この授業の参考書としては

「どうして英語が使えない？ 学校英語につける薬」酒井邦秀、ちくま学芸文庫

「快読100万語！ ペーパーバックへの道」酒井邦秀、ちくま学芸文庫

「教室で読む英語100万語」酒井邦秀、神田みなみ、大修館書店

があります。

【授業内容とその進め方】

授業と課題の両方が重要です。

* 授業では「聞く・読む・聞きかつ読む・聞きながらシャドーイングする」の作業を学生ひとりひとりが自由に組み合わせて、それぞれに大量に聞き、読み、発声します。酒井はひとりひとりのそばにいて、様子を見聞きし、対話によってその人の次のステップを助言します。週を重ねるうちに少しずつ自分で次のステップを選べるようになることが目標です。

* 課題では、授業開始後数週間したら家に本や音源を持って帰ってもらいます。読む聞くは強制ではありません。時間があったら読む聞くをしてきてください。課題の消化具合は、「読まなかった、聞かなかった」でもいいのですが、かならず記録手帳に記入してもらい、授業中に先生が助言するための大切な資料にします。

なお、通常の聞く・読むの作業と違う点が三つあります。それは多聴・多読三原則といって、

1. 辞書を捨てる
2. わからないところは飛ばす
3. 話がわからなくなったら途中でどんどんやめる

というものです。一言でいえば、日本語に訳さずに楽しく聞き、読みましょうということです。この三原則は厳しく守ってもらいます。

また、授業中は厳しい第四原則が適用されます。

4. 周りの人の邪魔にならないかぎり何をしてもよい

です。これも厳しく守ってもらいます。

なお、さらに「通常の英語の授業」とちがう点が三つあります。つまり、先生は

1. 教えない
2. おしつけない
3. テストしない

のです。したがって、たいていの質問には「そのうちわかるよ」と答えます。レベルを無理に上げることは奨励しません。そして、聞き終わった、あるいは読み終わった本について、単語を覚えているかとか、どのくらいちゃんと理解しているかといった「チェック」はしません。酒井からたずねることは基本的に「おもしろかったかどうか」だけです。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

授業内容からわかるように、この授業は一斉授業ではなく、ひとりひとりが自分の意思で英語に親しんでいくので、一斉テストは不可能です。そこで、評価基準は目標達成度を二つの基準だけで測ります。

1. 多聴あるいは多読あるいはシャドーイングにどれだけの時間を費やしたか
2. 学期末に読解、文法、語彙の比較的よい尺度とされているCloze testを課し、どれだけ正解したか

この二つをマトリックスにして、区域を分け、区域ごとに成績とします。

なお、2. のcloze testは準備は不可能です。ですからふだんの授業では試験を気にせずに読書を楽しむことができます。

なお、進んだ学生は徐々に上級科目のExtensive Reading A/B とおなじように、個々のプロジェクトを追求します。そのため、成績の評価はそれぞれのプロジェクトによって異なります。ラバスのExtensive Reading A/B のシラバスを参照してください。

【オフィスアワー：授業相談】

課題の本または音声素材が終わったら研究室に取り替えに来てください。その際に研究室の戸を叩いて、様子を聞かせてください。

月曜日の午後

電気通信大学 平成19年度シラバス

火曜日の午前午後
水曜日の午後から8時
木曜日の午後
金曜日の午後

【学生へのメッセージ】

みなさんは1年目の酒井クラスで、数万語から数十万語の英文を吸収しました。これは平均的な大学生の数倍から数十倍の量です。これでCritical ThinkingとAutonomous Learningの準備が整いました。2年目の多聴多読演習クラスではいよいよみなさんの好みを生かし、将来の目標へを意識した多聴多読が可能になってきます。全国の大学で第1位の多読用図書と音声素材を生かして、楽しく英語の吸収、発表へ歩を進めてください。なお、3年次の上級科目では大量に体に貯めた英文を土台に、より学術的な英文へ、そして「話す、書く」へと自分のプロジェクトを発展させてもらいます。そのことも念頭に置いておいてください。

【その他】

<http://tadoku.org>に来てください。